様式　1

論文審査の結果の要旨および担当者		
学位申請者	木村　剛	
論文担当者	主　査	小山　英則
	副　査	吉村　紳一
	副　査	八木　秀司
学位論文名	Central Serous Chorioretinopathy and Blood Serotonin Concentrations （中心性漿液性脈絡網膜症と血中セロトニン濃度）	

論文審査の結果の要旨

中心性漿液性脈絡網膜症(CSC)は漿液性網膜剥離や脈絡膜肥厚をきたす脈絡膜主体の疾患で、ストレス関連疾患ともとらえられている。ストレスに関連する視床下部-下垂体-副腎皮質ホルモン、およびその調節に関与する可能性があるセロトニン(5-HT)の血中濃度と CSC の関連を検討し、血中 5-HT 濃度が CSC 患者の予後の予知因子となる可能性を示した論文である。

2017 年から 2019 年に兵庫医大を受診した CSC 患者 93 例を対象とした。断面解析の結果、血中 5-HT 濃度の低値は、網膜血管漏出点増加、中心窩脈絡膜肥厚と関連し、特に脈絡膜肥厚と 5-HT 低値は他の因子に独立して有意な関連を示していた。興味深いことに、追跡調査により血中 5-HT 低値が治療後の再発の予知因子となることが示唆され、これも脈絡膜肥厚の影響が想定された。仮説の一つとして評価した副腎皮質ホルモンなど他のストレス関連ホルモンの関与は示されなかった。

本研究は、五味眼科講座として継続的に取り組んでいる CSC 領域研究の一翼を担うもので独自性が高く、5-HT 濃度が臨床的に CSC 患者の予後予知因子となる可能性を追跡調査により初めて示し、新規性が高い成果である。研究計画・方法において、コホートに対照群がないこと、追跡調査の詳細の記載が不十分であることなどに加えて、セロトニンが CSC に関与する機序が本研究からは明らかにできていないが、生体ストレスの眼疾患発症・増悪における意義、治療標的の提案など非常に新規性・独創性の高い研究成果であり、本研究の知見は学位授与に十分値すると判断した。